

### 第十号発刊に寄せて



会長 相澤 栄

この冬は、例年になく豪雪に見舞われましたが、会員の皆様には益々お元氣のことと心からお慶び申し上げます。同窓会も皆様の御協力によりまして円滑に運営されておりますことを心から厚く御礼申し上げます。

母校は四月、三・四名の新入生を迎えました。その入学式で祝辞として、私は高校という世代は、同窓会の皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃何かと母校後輩のために協力を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、今年もまた二・三三名が卒業し皆様の仲間に加えて頂きましたが、卒業式に際しての御祝辞を述べた自戒を促しましたので皆様からも一層のご指導を賜りたいと存じます。

それは、「吹毛用いたらば急ぎ須らく磨すべし」という言葉を座右の銘にせよということ。これは臨済禅の開祖義玄の末期の偈（仏徳を讃えた詩）の一節で、「どんな利剣——吹毛とはフツと吹きつける毛をスッと裁断してしまふほどよく斬れる剣——でも、使えば曇りも出るだろうし、歯こぼれが生じる場合もあるから、使いおわたら十分に入力をしておこうよ」というのが一応の意

人間の作られる大切な時期であること、この大事な時期に歴史と伝統のある同じ西高で学んだ者同志には多くの共通点があり、共感もわかれ合えるものであること、そしてそれは教育というものの大きな力であると申し述べました。

また私達の立派な先輩の築かれた道を絶やさないように、更にその道中を歩いていくことができるよう共に力を合わせて進んでいきたいとお願いしました。

この伝統のある母校が、昭和六三年に創立九十周年を迎えるに当たり、今年には記念事業実行委員会が組織され、真意はもつと深い所にあると、吹毛とは、同じ利剣でも実は文殊菩薩が右手に構えている金剛王宝剣のごとく、全ての迷いをスバリと裁断する文殊の智慧の鋭さを象徴したものである。その文殊菩薩さへ智慧の宝剣が曇らないようにするには常に手入れを怠らず、いざという時に正しい判断ができるように絶えず修行に励んでおられる。まして凡俗の身にあつては一層自己練習に励む必要がある」というのが真意です。

ところで、卒業にあつてこの言葉を座右の銘として奨めたのは何故かといえます。実は昨年の卒業式で、「西高卒業生たる者はエリートであるから、エリートに

編集発行所  
990 山形市鉄砲町一丁目  
15-64  
山形県立山形高等学校  
同窓会  
電話 41-3504  
振替山形 5-995番

設立され、同窓会からも多くの委員が選出され、その任に当ることになっていきます。

事業計画として  
一、同窓会館の改築  
二、同窓会館の整備  
三、九十周年記念誌の発刊

があげられております。PTA・後援会と力を合わせて、私共同窓会も全力をあげて協力出来まよう

### 母校より 森田静枝様に感謝状を贈呈

第9号で紹介の通り、昭和六年高女卒で千葉市在住の森田静枝様（旧姓高橋）より多額の篤志寄付を頂いた母校では、森田様に感謝状と記念品を贈ることに決定し、五月二十八日の同窓会東京支部総会の席上伝達されました。

ふさわしい才能で世に奉仕してはしい。諸君の才能は、ただに諸君の私有財産であるのみならず、公共の共有財産でもある。従つて、公共のために才能で奉仕するのが諸君の使命である。という意味のことを述べたのですが、後日、ある父兄から、「余りエリート、エリートと持ち上げるから天狗になり、お女になるのではないか。むしろ、女らしさとか謙遜の美德を強調してほしかった。」と、お叱りの手紙を頂きました。私としては、エリートの才能で世に奉仕してほしいという西高卒業生に対する願いは今も変わりませんし、また、あの式辞の中でも、「諸君は女性であるから、女らしい姿勢で



### 吹毛用了急須磨

校長 田中吉也

う今から会員の皆様にお願ひ申し上げます。会報もおかげをもちまして第十号という記念すべき発刊となりました。昨年は記念碑建立の御礼状と共に会報を送付し、母校や同窓会の活動状況を知っていただき、大変好評でございました。

今後、同窓生一万八千人、お一人お一人にどのようしてお届けしたらいかが課題としてお届けてございまして。広く皆様からお知恵をお寄せいただき、会報が広く活用されますよう切に願つているところでございます。

最後になりましたが同窓会同窓会が、ますます発展向上されますよう願つてございましておたします。

秋晴れの九月十五日（敬老の日）山形県教育会館大ホールで、母校の先生方はじめ、お元氣な米寿・喜寿の大先輩をお迎えして、参加者三百名という大盛会のうちに総会を開催することができました。

なごやかな中に、同窓会の事業や会計報告がなされたあと、母校の先生であられた前田春治先生をお招きし、講演していただきました。

先生の描かれた素晴らしい大作をたくさんご持参いただいたの情熱的なお話は、参加者一同感動いたしました。今回は、昭和三十九年、四十年卒の二学年が当番でしたが、係一同わらないながらも努力して総会を無事つとめることができました。

若い層の方にも多数参加していただけたことは、同窓会への理解も深めることができたように思われます。

### 同窓会総会開催



総会スナップより

昭和58年度

### 評議員紹介

- 鈴木重（寒江支部長）・林やす（天童支部長）・古沢せい・長鳴喜代子・朝倉カツ・阿部まさ・佐藤とく代（東根支部長）・中村チエ・石沢ツネ（中山町支部長）・溝口静子・佐藤チエ・大宮文子（東京支部長）・堀あさ子（蔵王支部長）・齋藤美代・小林和子・遠藤静子・中原えい・玉田アサ・加川芳子・須貝清子・柏川タカ子・鈴木貞・小松テル子・安藤朋子・遠藤美英子・平田洋子・渡辺康子・松浦英子・鈴木公子・伊藤能子・庄司紀子・堤佳子・鈴木幸子・大沼宏子・鎌田きみ子・川崎礼子・菅野ふみ・酒井孝子・井口登美子・尾原克子・森谷由美子・太田孝子・榎森房（監事）・金谷睦子（監事）

### 東京支部役員

- 井尻トミ・岡崎てる・芳賀洋子（副支部長）・松林みつ・湯浅美津子・田中やよ江・表キミ・高梨ふぢ・菅原あさ・国井正子・松本多賀子・福田純子・神尾ひさ（副支部長）・横沢栄子・渡辺タケ・高関京子・高橋トヨ・牛渡真子・遠藤ハナ・大宮文子（支部長）・伊藤淑子・松本由喜子・佐々木百子・菊池くに子・平本弘子・北原とし子・田子静子・佐藤文子・佐藤英・笹村あや子・谷みほ・佐藤多津・横尾靖子・大谷知子・石塚静代・志塚郁子・穴水玲子・無着トキ・磯崎とく江・奥山佐貴子・石山サチ子・沢田康子・鈴木和子・平賀美智子・萩原靖子・竹内良子・鴨治邦江・中島慶子・佐藤美智子・増子知子・大塚とき・名取順子・松山登子・村上ちか子・渡宏子・柴久喜みどり・卓京子・石田佳子・佐々木真理・水谷恵子・大坂しず子

### 母校に 新校舎建設始まる

母校山形西高の入学者定数が昭和五十八年より三・五名（七学級）となつて、六十年四月には二十一学級となり教室の絶対数が不足するため、特別教室棟の建設が行なわれることになりました。体育館と第二棟をつなぐ旧昇降口（今春までは生徒委員室、体育用具室）通称部長屋を取り壊し、鉄筋コンクリート造り四階建て約二千㎡の校舎が来春三月末完成の子定です。同校舎には一階ボイラー室等、二階図書館、三階物理、地学の二実験室と同準備室、四階化学、生物の二実験室と同準備室が作られ

### 山本林前校長先生 圖書を寄贈

昭和十九年罹災直後に着任された本校復興、また現在地への移転と今日の基礎を築かれ、二十五年まで在任された山本林前校長（宮城県泉市在住）は、昨年五月の記念

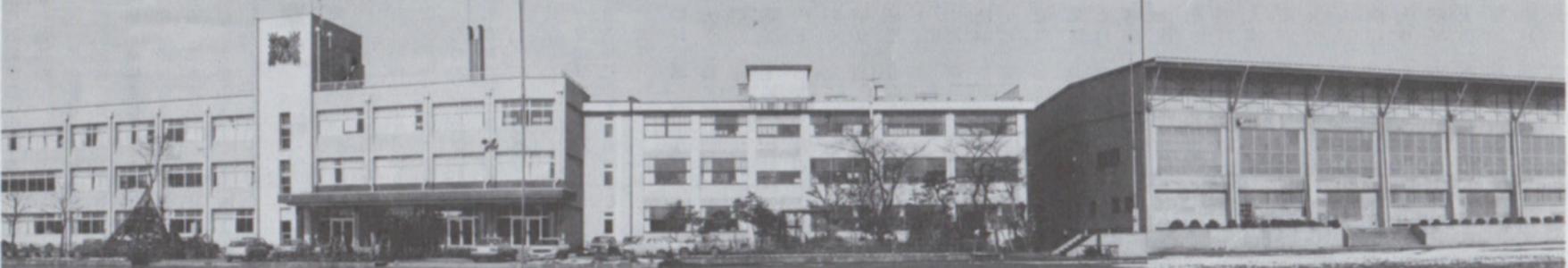
おめでとうございます  
現代の名工百人に  
安藤よし子様

大正十五年高女卒の安藤よし子様は、五十八年秋、婦人服製作の卓越した技術者として、現代の名工百人に選ばれ、労働大臣より表彰されました。

なお総会においでの方の米寿、喜寿の皆さまより多数のお礼状が寄せられております。（金澤 記）

昭和十九年罹災直後に着任された本校復興、また現在地への移転と今日の基礎を築かれ、二十五年まで在任された山本林前校長（宮城県泉市在住）は、昨年五月の記念

除幕式に参列下さいました。その折り母校のお役に立てて欲しいと先生御愛蔵の蔵書の中より、小学館刊「日本の美術」五十冊を御寄贈下さいました。



### 女師卒50周年記念祝賀会とクラス会について

押野きよ

去る十月十五日ホテルキャッスルで山形創立百五周年記念と、当時の山形師範一部、二部、青年学校の卒業生四百五十余人が集り、三十年、五十周年祝賀会が盛大に開かれました。

私達女子師範一部四十人中二十五人、二部二十人中十六人が現存し、「日嗣の皇子の出でまして、おり立ちまじし文の庭」の誉高い校歌を合唱、さらに奥飛騨慕情を吟詠して余興の責をはたしました。

二十年前、五十周年記念までは



皆健在でと願っておりませんが、森ハツエさんが病死なされたのでくやまれてなりません。式後出席者二十一人が天童ホテルに向い、懐旧のひと時を過ごしお互いの健康を喜び合いました。

私達は昭和八年の不況時代に封戦となり戦時経済下に耐えその後敗戦、戦後の社会混乱、民主教育への転換と著しい歴史の変遷を体験、どん底からはい上り今日の繁栄と豊かさを得る事が出来ました。その反面、感謝とか思いやり忍耐等が少なくなっているのでは、悲しい事だと話をしてあります。

五十年の労苦を克服して古希を迎えた老女だけに、退職後茶華道の師、歌道、書道、手芸、詩吟等に精進し余生を楽しんでおります。

米沢の方は皮細工に挑戦し毎年個展を開き、東根の方は年中行事と郷土料理について本を出し、昔から伝わる正月料理をNHKテレビで紹介したり、皆それぞれ大活躍をしております。

学生時代、子供の事、家庭の事をベチャベチャと駄べって一夜を楽しく過ごしました。

昭八女師一部卒

### 女師(一部)を卒業して

三浦カネ

抜けるような青空の好天に恵まれた昭和五十八年十月十五日、師範卒業五十周年の式典がホテルキャッスルで盛大に行われました。男女合せて四百余名で、遠方から出席の方もあり、式典記念撮影祝宴と盛沢山行事が華やかに行われました。五十年前と言へば昭和八年のやうやく戦時色の濃くなりつつあった時、私達はそれぞれの学校へ希望に燃えて赴任して行きました。そして減私奉公、教育報國を旗に小国民の育成に情熱をそそいだのも昔語りとなつてしまいました。戦後の混乱期もそれに続く高度成長の時期も無事職務を全うし得たのも母校の諸先生のおかげと今更のやうに感謝して居ります。

式後、私達二部卒業者のみ、級担任であられた谷口先生の小白川の御宅に参上して今日のご報告を報告すると共に、永年私達を助けて下さった先生にお礼申し上げました。先生は非常にお喜びになつて気軽に記念の写真に入ってもらいました。

先生のお宅を辞してから、夕暮のバイパスをマイクログラスで上山温泉材木寮屋に向ひ、此所で一泊し、五十年間の思ひ出を語り合ひ楽しい一夜を過ご



昭八女師一部卒

### 桜井浜江さん 十字屋で個展



現在中央画壇で活躍中、独立美術協会の女流画家を代表する桜井浜江様の、山形に於ける二回目の展覧会が、三月二十八日、四月三日、十字屋七階画廊で開かれた。



二十年来のテーマである「樹」は桜井御自身の内なる生命を表現したものであり、命がけで描き出し完成するとぬげがらになる。と話しておられたが、その一枚一枚の絵からは何とも名状し難い迫力が感じられた。

尚、昭和三十六年に母校に御寄贈いただいた絵は、現在母校進路指導室に展示してあり、画集は嚶鳴資料館にありますので是非御覧下さい。

(文責 堤)

昭和五十八年度篤志寄付ご芳名

- S5 高女 菊地 たか様
- S27 南高 武田ハルヨ様
- M43 技専 谷口 ミヨ様
- M44 女師 近藤 哲様
- T14 高女 高橋 政様
- S16 高女 大宮 文子様
- T3 女師 村川 しか様

昭八女師一部

昭和59年度 東京支部総会報告

冬から春へと異常な寒さに見舞われた今年も、やっと平年並みの気温になった五月二十八日、東京プリンスホテルにて、嚶鳴同窓会東京支部総会が開かれました。八名という多数の御来賓と同窓生の一六二名が、にぎやかで本当に楽しい一日を過ごしました。

何と言っても、今年一番嬉しかったことは、五月二十七日朝日新聞の都内版「交差点」欄に、この日のお知らせを載せることができたことです。そのため多くの同窓生から反響があり、当日も飛び入りで駆けつけた方がおられました。その方は、御事情で最終学年を前に転校なさり、厳密に言えば、同窓生ではないということで、随分

季節の変わり目の晴れたと思えば急に雪混りの雨が降り、大西洋から押し上げられて来る雲の流れが早い。

午前中に潔めを終え、ストーブウエア(炬燵)の本焼き用バーナーに点火した時は午後一時だった。ガスの圧力、空気等の点検をし、ひと息する。この瞬間が何とも言えない私の心の休み時間である。私にとって窯焼きとは、窯焚きと平行して自分の内を覗き見る秘密の時でもあり、窯という真空の箱の中に全てを納め、火の力を借りて、じっくりと練り合せ消化吸収しようとして試す。午後三時、窯の温度は七氏度に達する。覗き穴から窯の上部を見ると、鈍赤色の中に器が黒く影を作り、緑の丘とはまったく別の世界だ。

(文責 堤)

### 窯日誌より 三月 長谷川恵子

午後七時すぎ、窯は白熱し七氏1100度を示し、火前のセーゴルコンNo.9(七氏1280度)も半分折れ曲っているのが目に焼き付く。

すぐに目を空に移すと焰の白色化した光が空に映し出され、月の光と重なり合って美しい。

最後の焚き上げをし、静かに火を止める。あの天目の色はどう出るかしらと後日の窯開きにはずむ心と、火から与えられたエネルギーを使い果たした後のかたまりを感じながら、畑の小道を通り窯場から離れる。一日中丘の上で草を喰んでいた牛達も夕方の乳しほり時間なのか急ぎ足で農場に向い牛追いのかけ声が野に響き渡り小さなシルエツトとなって夕ぐれ小丘の向うに遠ざかって行く。

ひんやりとした空気が熱い体に心地良い。

煤切れ時なのだが煤が多すぎるので、空気穴を開け、酸化焰を強めてみる。十五分後、煤も消えて窯内温度も平均に上昇する。

窯の温度は七氏度を越え、覗き穴から見える焰は紅赤色から橙黄色になり、そろそろ還元焼成に入るので温度の上り方に集るのを注意する。ガスの圧力、空気を調節し、ダンパーを少しずつ閉じ急冷を防ぎながら還元焰に変えて、ゆっくりと温度を上げてゆく。

時折り、まだ強い風が野を横切るとか煙穴の吸い方が強く、いつもよりダンパーを閉じ気味に、窯の温度を均等にする。



昭和五十八年度 東京支部総会風景

鈴木実先生、本部長長相沢栄様、そして、かつて我々当番学年を担任して下さった日野正先生よりご挨拶を頂き、八十才になられてお元気な藤島昌平先生の音頭で乾杯と続きまして、アトラクションには、神尾ひさ副支部長の御披露でシャンソン歌手の神尾ゆう子さんに特別においで頂き、すばらしい歌声に全員うっとりした次第です。満足な準備も出来なかつたステージですので、本心に心をこめて歌って下さった神尾ゆう子さんには感謝の言葉もありません。

最後に、この総会を開くために大宮支部長芳賀、神尾副支部長芳賀、神尾両副支部長をより多大な御協力を頂きましたことを深く感謝いたします。会が終わわり、ホテルの玄関までお見送りした私達と握手して下さった大先輩の方々、いつまでもお元気で、来年も又、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

昭四十二年卒 水谷恵子

- 山形西高第三十回卒業生クラス幹事(敬称略)
- 一組 原田紀美子 菅藤智子
  - 二組 高橋江美 小林葉子
  - 三組 高橋紫織 高橋智子
  - 四組 清野智子 日野恭子
  - 五組 荒木玲子 茂木佳子
  - 六組 大場由美子 原田恵津子
- 岡崎貞江様
- 大正13年 高女御卒業
- 昭和58年6月29日 御逝去
- ご在学中は、スポーツ選手、沼ちゃんの名で(旧姓沼沢)みんなに慕われ、後には、同窓会蔵王支部長としていつも熱心に御尽力下さいました。又広く、蔵王のスキ一、夏山登山などに、大きな業績を遺された女傑の御が今も貴く憶はれます。(高橋政 記)
- 昭17 高女 保科ふくゑ
- 昭7 高女 岡田 ヤス
- 昭23 高女 花屋 武子
- 昭5 女師本 菅野みと子
- 昭5 高女 渡辺 さと
- 昭9 高女 飯沢 テイ
- 昭2 女師本 佐藤 良
- 昭12 高女 金子 久子
- 昭 恩 師 藤崎高之助
- 昭44 高女 田中 てい
- 昭4 高女 新開まじ江
- 昭17 女師二 渡辺 芳子
- 昭3 高女 三宅 キヨ
- 昭11 高女 佐藤カツ子
- 昭41 西高 山口みつ子
- 昭5 高女 相馬 れい
- 昭3 高女 樋口 ふじ
- 昭17 女師二 鏡 富美
- 昭12 高女 佐藤 クニ
- 昭29 高女 鍋倉佐津枝
- 昭10 高女 大國 静
- 昭13 高女 斎藤 フミ
- 昭8 高女 神田 安子
- 昭36 西高 白川七セキ子
- 昭15 高女 船山 リホ
- 昭20 高女 森 エツ
- 昭40 高女 伊藤シズカ
- 昭10 高女 金子 コト



昭和58年度同窓会経常費決算書

I. 収入の部

Table with 5 columns: 項目, 当初予算額, 決算額, 増減(Δ), 摘要. Rows include 入会費, 会費, 雑収入, 計.

II. 支出の部

Table with 7 columns: 項目, 予算額, 流用, 現計予算額, 決算額, 残高, 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 後援費, 記念品費, 印刷発行費, 事務費, 通信費, 慶弔費, 交通費, 諸費, 予備費, 計.

III. 残高 1,162,884 - 906,640 = 256,244円 (基本金へ)

昭和58年度同窓会基本金決算書

Table with 4 columns: 項目, 金額, 項目, 金額. Rows include 前年度より繰越し, 前年度経常費残金, 記念碑より, ふくさ代返金, 総会残金, 名簿売上げ金より, 記念品代返金, 銀行利子.

合計 2,889,487円

昭和59年4月25日

監査の結果適正なるものと認めます。

榎 森 房 印, 金 谷 睦 子 印

昭和59年度同窓会経常費予算書

I. 収入の部

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 増減(Δ), 摘要. Rows include 入会費, 会費, 雑収入, 計.

II. 支出の部

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 増減(Δ), 摘要. Rows include 総会費, 会議費, 後援費, 記念品費, 印刷発行費, 事務費, 通信費, 慶弔費, 交通費, 諸費, 予備費, 計.

会務報告

(昭和58年7月より59年6月8日まで)

〔総会関係〕

- 58年度総会 58年9月15日 教育会館 講演 前田春治氏
○反省・引継会 58年10月11日 (ガンダーラ・インド スケッチ旅行)
○59年度総会準備会 58年末より数回
○59年度東京支部総会 59年5月28日 東京プリンスホテル

〔昭和58年度入会式〕

59年3月7日 新入会員 263名

〔評議員会〕

- 58年度第2回 58・7・16 総会・記念碑報告 評議員改選 会報配布
○" 第3回 59・2・28 入会式について 新評議員グループ分け 総会当番
○59年度第1回 59・5・15 決算・予算 59年度行事 総会
○" 第2回 59・6・30 (予定)

○旧評議員の引継反省会

永い間評議員として、会のために種々尽力され、このたびの改選で退任された小嶋ツネ氏・渡辺てる氏他14名の方達とお別れの会を持ち、苦勞話などで話がはずみました。

〔クラス幹事会〕

58年度 7月16日 59年度 6月30日 (予定) 総会・会報配布など

〔会計監査〕 59年4月25日

〔記念碑関係〕

- 58年7月5日 実行委員会 7月12日 発起人会
○58年7月末日までに、寄付者全員へ芳名簿・会計報告・記念碑絵葉書をそえたお礼状を発送完了。残金 237,385円は基本金会計へ入金。

〔名簿関係〕

会員より通知のあった住所変更等の整理と訂正表の発送。原簿訂正。

〔会報編集委員会〕

- 58年8月に来形された近藤哲氏を囲む座談会をはじめ、記事の取材、原稿依頼・記事作成・割付け・校正等で数回

〔会員後援関係 (在校生を含む)〕

- 嚶鳴女声合唱団東京公演 58年11月1日 東京虎の門ホール
○渡辺えり子氏サイン会 58年11月4日 山形市八文字屋書店
○桜井浜江氏油絵展 59年4月3日 山形市十字屋デパート
○嚶鳴ソフトクラブ 59年5月27日 県家庭婦人大会で優勝
○校内合唱コンクール 59年6月26日 (予定)
○校内総合体育大会 58年7月末日~9月初旬

事務局だより

維持費(年会費)納入お願い
一クラス二千元の年会費収入が
同窓会活動の原動力です。
昭和49年卒以上の学年は必ず納入
下さい。(但し喜寿以上は免除)

前回発行の名簿は残部が多く赤字だったこと。今回もその点かなり心配しましたが、恩師への贈呈分、編集、発送に際する諸経費等は、55・57年の名簿発行の経費より充当し、一番金額の多い基本金から借入した印刷所支払い分は、59年3月に名簿の売上金で全額返済が終了しました。

前回は、すみやかに同窓会事務局に連絡下さい。会員逝去のお知らせには、弔電をさしあげております。クラス幹事、同級生の皆様、よろしくお願いたします。

- 昭和58年会費納入者名簿
女師 T15(渡辺てる) T15(金森秀) S2(遠山梯子) S2(岡田美智代) S3(小嶋恭子) S4(山口幸子) S5(阿部静枝) S6(鈴木知子) S7(太田ヒサ) S8(木村よし) S8(三浦カネ) S9(岩井井藏) S9(大塚菊) S10(浅香香玉) S10(高橋節子) S11(鬼海タカ) S11(大江キエ) S12(三浦たみ) S13(荒井八重子) S13(田中みさ子) S14(武田いく) S14(柳野チヨ) S15(佐藤チエ) S15(原田光) S16(服部キミ) S16(永沼高橋) S17(大場とし) S18(五十嵐テル子) S18(堀口麻子) 高女 T12(小嶋ツネ) T12(奥田中ケイ) T13(大沼) 中村 T14(丹野) T15(大沼) S2(野) T15(大沼) S2(野) S3(後藤竹子) S3(大場悦子) S4(後藤森房) S5(長岡喜代子) S6(大沼うめ) S7(河田セイ) S9(伊藤ふく) S10(佐藤しま) S12(佐山安子) S12(中村チエ) S13(片桐達子) S14(後藤弥子) S14(玉ノ井英子) S15(佐藤トシ) S16(青山) 武田 S17(斎藤美代) S17(樋口寿子) S18(相馬弘子) S18(高柳啓子) S19(稲村ハナ子) S19(渡辺喜美子) S20(高橋昭子) S20(遠藤静子) S20(大沼みね子) S20(中原えい子) S20(大沼)

- ②大築美枝子 S20 ③高嶋光子 S21 ④加川芳子 S22 ④卒高橋明子 S23 ⑤卒 4卒金谷・須貝・高橋
四高 S24(阿部明子) 南高 S26(細谷貞子) S26(鈴木陽子) S26(曾根田頼子) S26(黒沢千枝子) S27(安藤朋子) S28(土屋久枝) S28(間文子) S28(染谷優子) S28(遠藤美美子) S29(大宮和子) S29(平田洋子) S29(吉田正子) 西高 S30(鍋倉靖枝) S31(松浦英子) S31(渋谷 藤田) S31(倉金) 国井 S33(斎藤) 名和 S33(木嶋) 大場 S33(井上) 黒沢 S33(佐藤) 加藤 S34(加藤静子) S34(中村郁) S34(日野) 丹野 S34(深瀬) よし子 S35(片桐文子) S35(木村令子) S35(荒井享子) S35(鈴木邦子) S35(長岡美子) S36(矢野淑子) S37(松田克子) S37(菅谷節子) S37(大沼宏子) S37(中村) 海谷 S38(鎌田きみ子) S38(高橋千佳) S38(清野) 東海林 S38(須貝) 小松 S38(石井) 布施 S39(川崎礼子) S40(長谷川) 則子 S41(酒井孝子) S42(鈴木) 伊藤 S42(関口久美子) S42(井口登美子) S43(鈴木一恵) S43(小島由紀子) S47(勝村) あけみ S48(黒田) 鏡 S48(大宮) 深瀬

編集後記

記念すべき10号であることに気が付いたのは編集終了間際、従って特集も何もなく、会員の皆様にはおわび申し上げるしかない。さて、割付けその他済んだ後に「嚶鳴クラブ」が山形県家庭婦人ソフトボール大会NHK杯で念願の優勝を果たしたとのニュース。おめでとうございます。それにしてもこの小さな欄にしか書けないことが残念である。今報は一年に一回の発行、書くべきことが沢山あるようでも無さくうて...子定の記事がグメになっ